

ザックにぴったり

マーゴ・メイ・アビー・ラーキンス
(ほんとうにあった話をもとに書かれました)



ザックは走ったり、ジャンプしたり、遊んだりすることが好きです。それと、ザックには感覚処理障害があります。



ザックにとって、それは大きな音が苦手であることを意味します。そしてザックは毎日同じことをするのが好きです。



毎日午後になると、同じおもちゃの飛行機で遊びます。



毎晩、ねる前に同じ物語を読みます。



そして毎週日曜日、初等協会では同じ椅子にすわります。



ある日教会で、子供たち全員が礼拝堂で初等協会のプログラムの練習をしました。これはいつもとまったくちがうことでした！



ザックは、いつもとちがうことが苦手です。



お母さんは、ザックが体をもぞもぞ動かしても大丈夫なように、いちばん前の列に立たせてくれました。



友達がとなりになって、安心できるように助けてくれました。



周りの音が小さく聞こえるように、先生がヘッドホンをくれました。それでもザックはまだ落ち着くことができません。



そのとき、音楽指揮者と初等協会会長がアイデアを思いつきました。



ザックの特別な役割は、ザックにぴったりでした！ザックは天のお父様の愛を感じてうれしくなりました。

イラストレーター：フリスコー

このお話はアメリカ合衆国での出来事です。